

令和元年8月23日
東京厚生信用組合

第10回 経営諮問会議の概要について

当信用組合は、理事会の諮問機関として、外部有識者で構成される「経営諮問会議」を設置しております。

本会議は、外部有識者より経営全般について助言・提言をいただき、これを経営に反映させることにより、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的としております。

過日、「第10回経営諮問会議」を開催いたしましたので、その概要につきまして、下記のとおりご報告させていただきます。

なお、第11回会議は、令和2年1～2月頃に開催する予定です。

— 記 —

1. 日 時 令和元年7月26日（金） 10：00～11：40

2. 場 所 東京厚生信用組合 本店

3. 出席者

（経営諮問委員）（五十音順、敬称略）

鈴木 豊 （公認会計士・税理士）

傳田 純 （東京都商工会連合会 専務理事）

西岡 修 （社会福祉法人 白十字会 白十字ホーム ホーム長）

（東京厚生信用組合）

田代 智彦 （理事長）

中山 功 （常務理事）

高原 伸二 （常務理事）

中嶋 勉 （常勤理事・総務部長）

平山 圭樹 （常勤監事）

杉本 康幸 （企画部長）

4. 田代理事長挨拶骨子

- ・本日は、平成30年度決算概要や第二次経営強化計画の総括の他に、第三次経営強化計画案等についても説明させていただき、その後、委員の皆様から忌憚のないご意見等をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

5. 当組合からの説明内容

・杉本企画部長より、以下の内容について説明いたしました。

- ① 平成 30 年度決算概要
- ② 第 67 期事業計画及び収支予算
- ③ 第二次経営強化計画の総括
- ④ 第三次経営強化計画案の概要

・高原常務理事より、以下の内容について説明いたしました。

○業域取引の基盤再構築と拡大へ向けた業務運営方針

6. 会議における主な意見

出席委員の皆様から、以下のようなご意見・ご提言等をいただきました。

- 平成 30 年度決算内容については、慎重な余資運用など、健全な経営が功を奏した結果であると思う。
- 第三次経営強化計画の初年度から来年の中頃までは、景気もこのままでいくと思われるが、東京オリンピック・パラリンピック以降は厳しくなることが予想される。当組合の初年度の計画については、過去の実績等から考えて達成可能と思われる。
- 平成 31 年 3 月末基準で、貸倒引当率の保守的な見直しを行った趣旨、及び過大な引当ではないことについて了解した。
- 今後の業務拡大を図る上で、人件費の上昇はある程度必要である。業績に対する適正な評価をしないと、育ってきた職員が辞めてしまう虞があるし、人材確保のためにも必要である。
- 女性職員の登用は重要なことであり、第三次経営強化計画の中で謳っているのは適切である。
- 中小企業の事業承継はうまくいっておらず、解決に時間を要する場合がある。顧客の情報収集等を行い、ニーズを捉えていくことが必要である。
また、中小企業の事業承継がうまくいかない結果、企業数も減少傾向にある。従って、中小企業向け貸出については、今後厳しい状況が想定される。
- 第三次経営強化計画の中で、当組合の認知度向上に努めるとのことだが、工夫の余地はあると思われる。例えば、(社福) 東京都社会福祉協議会の封筒に掲載している広告については、当該部分の色が他と同じであり、わかりづらい。また、同協議会会員への PR 方法として、チラシなどの頒布物も有効であると思われる。
- 社会福祉法人で、ICT 導入やナースコール交換等を計画している施設に対しては、国や公共団体から補助金が交付される。また、(社福) 東京都社会福祉協議会所属の社会福祉法人の 8 割が、人材不足のため、人材派遣を受けており費用負担も大きい。このように、社会福祉法人関係で資金ニーズが考えられる。

- 反社会的勢力に対しては、前線で業務を行っている職員をはじめ、毅然とした対応を行っていただきたい。一度問題を起こすと、今迄築いてきた信用が報道等により一瞬にして失墜してしまうので留意していただきたい。

7. 田代理事長からの回答

本日は、大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

以上